

## 令和8年度 PTA 保護者交流会・防災講座 報告

1. 日時： 令和8年 7月9日(木) 9:30~11:30 防災講座  
13:20~14:50 保護者交流会
2. 場所： 本校 会議室
3. 参加者： 防災講座 9名 保護者交流会 8名
4. 防災講座の内容：以下のとおり

\* \* \* \* \*

### 「障害や医療ケアが必要な子どもの災害時の避難と備え」

防災アドバイザー： 岩原廣彦氏・加藤均氏（県技術士会）  
竹森正博氏・白川雅仁 氏（県防災士会）

#### 1. 福祉避難所はすぐには利用できない

- ・福祉避難所は災害発生直後には開設されない。 ・開設まで3~7日程度かかることが多い。
- 原則として ①一般避難所へ避難 → ② スクリーニング（生活が困難か判断）  
→ ③必要と判断されれば福祉避難所へ移動 という流れになる。
- つまり、自宅から直接福祉避難所へ行くことは基本的にはできない。

#### 2. 福祉避難所は数が少ない

香川県では「一般指定避難所：約663か所」に対して「福祉避難所：49か所」しかなく、受け入れ人数も限られる。また、「施設の被害状況・職員数・入所者の状況」によって受け入れできない場合もある。

#### 3. 支援学校に通う児童生徒は「子ども福祉避難所」

支援学校に通う児童生徒は、一般避難所を経由せず、直接「子ども福祉避難所」へ避難できる場合がある。

#### 4. 一般避難所では難しいことも多い

一般避難所では「医療的ケア・人工呼吸器・発達障害への対応・自閉症への配慮」などは十分対応できない場合がある。そのため、自分の子どもに必要な支援を早く伝えることが重要。

#### 5. ヘルプカード・メッセージカードが重要

避難所では「障害の内容・必要な支援・医療機器・食事形態・パニック時の対応」などを書いた「ヘルプカード・メッセージカード」を見せることで必要な支援につながりやすくなる。

## 6・電源対策は家庭でも必要

避難所で電源があるとは限らない。医療機器を使う家庭では「内臓バッテリー・予備バッテリー・ポータブル電源・ソーラーパネル・発電機」などの複数の電源確保を考えておくことが大切。

## 7. 薬は2週間以上備蓄する

災害直後は、病院は重傷者対応が優先になる。そのため「普段の薬・医療材料・栄養剤」は最低1～2週間分家庭で準備しておく必要がある。

## 8. 在宅避難も重要

家が安全なら、在宅避難が最もストレスが少ない。そのため「食料・水・医療材料・オムツ・吸引用品・栄養剤」などは一般家庭より多めに、約1か月分程度の備蓄を勧める。

## 9. 車いすでの避難は、事前確認が必要

実際に避難訓練をすると、「段差・側溝・狭い道・崩れた道路」など多くの問題が分かる。電動車いすは重く、男性4人でやっと持ち上げられた事例もある。実際に避難ルートを歩いて確認することが重要。

## 10. 個別避難計画は作って終わりではない

計画書には「支援者・避難場所・避難経路・医療情報」などを書く。しかし、「実際に支援者が来られるか?」「避難できるか?」までを確認しなければ、「紙だけの計画」になってしまう。また、定期的な見直しも必要。

## 11. 地域とのつながりが命を守る

行政や消防だけでは対応しきれない。普段から「近所・民生委員・自主防災組織・地域住民」との見える関係をつくり、「助けてください」と言える関係作りが大切。

## 12. 災害用伝言ダイヤル「171」

通信が途絶えた場合は、171（災害用伝言ダイヤル）を利用する。  
「1 録音 2 再生」を通した学校との連絡手段として活用することも提案された。

## 13. 支援学校は一般避難所ではない

支援学校は障害のある子どものための福祉避難所であり、一般住民が避難すると必要な支援が受けられなくなる。そのため、一般住民には別の避難所を案内する必要がある。

## まとめ

障害や医療的ケアが必要な子どもは、一律の避難では守れない。家庭ごとに必要な支援を整理し、普段から備蓄・個別避難計画・避難訓練・地域とのつながりを整えておくことが子どもの命を守ることにつながる。

「福祉避難所に行けば安心」という考えではなく、在宅避難・事前準備・地域との連携・個別避難計画の実効性が非常に重要であることが繰り返し強調されていた。

## 5. 保護者感想

### 防災講座

・専門家の具体的なお話がとても参考になった。「実効性のある」避難・準備・計画を見直すとともに、実際に動いてみることの重要性を感じた。

・福祉避難所や福祉こども避難所が開かれる日数等が詳しく分かり、利用手順が具体的に頭に描きました。知らなかった香川県の現実も知り、自分で用意することや用意する物の大切さがよく分かり、とても勉強になった。

・自宅での準備はいろいろ対策をしているが、まだまだ足りていないと実感している。学校での準備も最小限にし、災害が起こればすぐに引き取りに行けると思っていたが、学校までの距離や災害の規模を考えると全く足りていないことに気付かされ、次の準備はしっかりしていこうと思っている。また、学校が避難場所として受け入れてもらえると知り安心した。実際にどこでどのような形で起こるかは分からないが、考える一日になった。

### 保護者交流会

・クラスはもちろん、所属学部によって関心事や悩みにも違いがあることが分かった。子どもは高等部なので、進路に興味に向かいがちだが、年下のお子さんの話を聞き、日々の生活を大切にしようと思った。

・主に1・2組と3組に分かれての交流だったが、さまざまな悩みや情報を共有することができて良かった。話す内容が何でもOKとのことだったが、1～2つお題があれば、もっとたくさん話せたかもしれない。

・知識や情報を得ることの大切さを知り、一人で抱え込まないで良い、と言ってもらえたことに少し救われた。個々での対応は難しいと思うが、知ることは大切な事だと思う。ハードルが高いこともあるが、スモールステップで参加していきたい。

### その他

・自宅で過ごすときに、全介助のお子さんをもつ方は、どんな工夫があるか知りたい。